



Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

第 3 回 連続講座

『いのち』を考える 開催決定！！

当財団では、平成 24 年度より、死や悲嘆、グリーフケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開講し大変好評をいただいています。このたび 5 月より、第 3 回目となる連続講座「『いのち』を考える」～生きることの苦悩と喜び～を開催いたします。

1. 日 時 平成 25 年 5 月 8 日から平成 25 年 7 月 10 日の毎週水曜日 18:30～20:00 (計 10 回)
2. 会 場 関西国際大学尼崎キャンパス
(尼崎市潮江 1 丁目 3 番 23 号、JR 尼崎駅北口とデッキ直結)
3. 講 師 (敬称略)

5/ 8	青木新門 (作家、詩人)
5/15	細谷亮太 (聖路加国際病院小児総合医療センター長)
5/22	伊藤高章 (桃山学院大学教授)
5/29	田村恵子 (淀川キリスト教病院看護部主任課長、がん看護専門看護師)
6/ 5	田中幸子 (「全国自死遺族連絡会」世話人)
6/12	大井 玄 (東京大学名誉教授)
6/19	島 蘭 進 (東京大学教授)
6/26	河邊貴子 (聖心女子大学教授)
7/ 3	柏木哲夫 (金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長)
7/10	水谷 修 (花園大学客員教授、関西大学客員教授)

4. 主催等

主催：公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団
協力：西日本旅客鉄道株式会社
後援：関西国際大学

5. 定 員

350 名 (参加無料・要事前申込み)

お申込み多数の場合は抽選とし、当選者の発表は受講証の発送 (4 月下旬頃) をもって代えさせていただきます。

6. お申込み方法

- ・ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) からお申込みください。
 - ・ハガキでもお申込みいただけます。(「連続講座参加希望」と明記の上、参加される方の氏名 (要フリガナ) 郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスを記載し、下記の宛先へお送りください。)
- 10 回通しの講座のため、全回一括でのお申込みとなります。特定の日だけの参加またはお申込みはできません。
- ハガキでのお申込みの場合は、1 枚につき 1 名様のお申込みとさせていただきます。
- 申込締切：平成 25 年 4 月 8 日 (月) (ハガキの場合は必着)
- お申込みが本会場の定員を超えた場合、モニターで視聴できる別室 (モニター会場) をご案内させていただく場合がございます。ご希望の方は「モニター会場でも可」とご記入ください。なお、最初からモニター会場での視聴のお申込みはできません。
- お申込みで知り得た情報は、当講座の運営及び財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4 番 24 号
公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団

7. その他

- ・当日の取材はお断りさせていただきます。
- ・講座の内容は、ホームページ (<http://www.jrw-relief-f.or.jp/>) でもご覧いただけます。

第3回連続講座『いのち』を考える」講師プロフィール

日程	講師（敬称略）	プロフィール
5/8 (水)	青木 新門(あおき しんもん) 作家、詩人	早稲田大学中退後、富山市で飲食店「すからべ」を営む傍ら文学を志す。吉村昭氏の推挙で「文学者」に短編小説「柿の炎」が載るが、店が倒産。1973年冠婚葬祭会社(現オークス)に入社。専務取締役を経て、現在は顧問。1993年葬式の現場の体験を「納棺夫日記」として著しベストセラーとなり全国的に注目される。2008年に「納棺夫日記」を原案とした映画「おくりびと」がアカデミー賞を受賞して再び注目される。
5/15 (水)	細谷 亮太(ほそや りょうた) 聖路加国際病院小児総合医療センター長	東北大学医学部卒業。聖路加国際病院小児科部長、同病院副院長などを経て、現在同病院小児総合医療センター長。専門は小児白血病、腫瘍学、小児保健など。日本小児科学会代議員。著書に「医者が泣くということ」、「小児がん」、「今、伝えたい『いのちの言葉』」他多数。
5/22 (水)	伊藤 高章(いとう たかあき) 桃山学院大学教授	上智大学グリーンケア研究所客員所員。日本スピリチュアルケア学会資格認定制度運営委員長。国際パストラルケア・カウンセリング協会副会長。2002・2003年度スタンフォード大学病院スピリチュアルケア部客員スーパーヴァイザー。
5/29 (水)	田村 恵子(たむら けいこ) 淀川キリスト教病院看護部主任課長、がん看護専門看護師	聖路加看護大学大学院看護学研究科修了。大阪大学大学院医学系研究科修了(医学博士)。2008年ホスピスでがん患者を最後まで看取り、家族の看護にも取り組む姿がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で放映され反響を呼ぶ。また、2012年TBS系ドラマ「奇跡のホスピス～人生の“わずれもの”ってなんですか?～」主人公・田辺礼子のモデルとなる。著書に「余命18日をどう生きるか」など。
6/5 (水)	田中 幸子(たなか さちこ) 「全国自死遺族連絡会」世話人	2005年、当時警察官だった長男を自死により失う。その翌年、遺族による自助グループ「藍の会」を仙台市に立ち上げ代表を務める。会員は全国に広がる。また、子供を亡くした親の会「つむぎの会」代表、仙台市・角田市・宮城県の自死対策委員も務める。著書に「『会いたい』自死で逝った愛しいあなた」など。
6/12 (水)	大井 玄(おおい げん) 東京大学名誉教授	東京大学医学部卒業。ハーバード大学公衆衛生大学院修了。東大医学部教授などを経て、国立環境研究所所長を務めた。専門は社会医学、一般内科、在宅医療、心療内科、環境医学。現在も臨床医として、終末期医療全般に関わる。著書に「終末期医療」、「痴呆の哲学」、「痴呆老人」は何を見ているか、「人間の往生」など。
6/19 (水)	島園 進(しまどの すずむ) 東京大学教授	東京大学文学部宗教学科卒業。東京外国語大学日本語学科助手などを経て、現在、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部宗教学科教授。主な研究領域は宗教学理論、比較宗教運動論、近代日本宗教史。日本を代表する宗教学者であり、死生学の第一人者である。著書に「現代宗教とスピリチュアリティ」他多数。
6/26 (水)	河邊 貴子(かわべ たかこ) 聖心女子大学教授	東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。公立幼稚園にて保育に携わった後、都立教育研究所にて指導主事。夫のがん闘病を支えるために退職し、2年後に見送る。その時の体験を「河辺家のホスピス絵日記」(山崎章郎医師と共著)にまとめる。この体験を生かし、医療と地域をつなぐNPO法人の活動や、ホスピスに絵本を届けるボランティア活動がライフワークの一つとなっている。
7/3 (水)	柏木 哲夫(かしわぎ てつお) 金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	大阪大学医学部卒業。ワシントン大学留学。淀川キリスト教病院で日本最初のホスピスプログラムをスタート。大阪大学人間科学部教授を経て金城学院大学学長。現在学院長。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長、JR西日本あんしん社会財団理事。著書に『死にざまにこそ人生-ありがとうと言って逝くための10のヒント』他多数。
7/10 (水)	水谷 修(みずたに おさむ) 花園大学客員教授、関西大学客員教授	上智大学文学部哲学科卒業。横浜市で長く高校教員として生徒指導を担当し、中・高生の非行・こころの問題等に関わり、生徒の更生と非行防止等を精力的に行う。また、若者たちから「夜回り先生」と呼ばれ、多くの若者たちとふれあい、非行防止と更生に取り組んでいる。現場での経験をもとに、雑誌への執筆、テレビ、ラジオへの出演、日本各地での講演を通して、子どもたちが直面している様々な問題について訴えている。

JR西日本あんしん社会財団
第3回連続講座

『いのち』を 考える

～生きることの苦悩と喜び～

死や悲嘆・グリーフケアはもとより、多様な観点から
「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開講します。

開講期間 平成25年5月8日から平成25年7月10日 | 連続10週
毎週水曜日 18:30～20:00

会場 関西国際大学尼崎キャンパス (JR尼崎駅北口とデッキ直結)

定員 350名 (参加無料・要事前申込) ※お申込み多数の場合は抽選

主催 公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団

協力 西日本旅客鉄道株式会社

後援 関西国際大学



公益財団法人 JR-West Relief Foundation
JR西日本あんしん社会財団

『いのち』を考える

第3回連続講座

～生きることの苦悩と喜び～

JR西日本あんしん社会財団は、平成24年度より、死や悲嘆、グリーフケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える連続講座を開講しています。

① 5月8日(水)



青木 新門
作家、詩人

『いのちのバトンタッチ』
一映画「おくりびと」に寄せて

私はひょんなことから葬儀社に勤め、納棺師兼葬儀士として働いていたことがありました。そんな葬儀の現場で死者たちから教わったことは『いのちのバトンタッチ』の大切さであった。そのことを納棺の現場体験や映画「おくりびと」の撮影などを交えてお話しさせていただきます。

② 5月15日(水)



細谷 亮太
聖路加国際病院
小児総合医療センター長

子どものいのちの傍で

治らなかつた時代から、8割ほどが治るようになった今日まで、小児がんの子ども達の傍にいて、さまざまな『いのち』に関わり、その周囲の人達とおつきあいをさせてもらって来た。そこから教えていただいたことは、人間に生まれてきてよかったという事。

③ 5月22日(水)



伊藤 高章
桃山学院大学教授

『いのち』を聴く「アート」と「アート」
—スピリチュアルケア教育の現場から

悲嘆のご経験をゆくりとそして静かに受けとめる孤独な時を経て、今度はご自分がケアの提供者となろうと学びを続ける方々がいらっしゃいます。その教育にご一緒する機会をいただいています。ありのままの心と向きあう、ケアアートの責いです。

④ 5月29日(水)



田村 恵子
淀川キリスト教病院看護部主任課長、
がん看護専門看護師

『いのち』向き合う
—生と死の境界を越えて—

いつかは死すべき私たちが死との対峙を余儀なくされたとき、死から生をまなざし、弱さの中にしなやかさを身につけて、人が羸弱の瞬間まで生き抜くことについて、ケアの視点からご紹介いたします。ケアの実態を理解していただくことを通して、死をも視座において「私」が生きることを一緒に考えてみましょう。

⑤ 6月5日(水)



田中 幸子
「全国自死遺族連絡会」世話人

悲しみは愛しさと共に

自死遺族として自助グループ活動をなぜ広げてきたのか、そして子供を亡くした親の会を通じて、震災の遺族の自助活動支援を見てきたこと、大切な家族への悲しみは愛しさとともにあり、悲しみは愛であり、だからこそ悲しみには力があることを知っていただきたいと願っています。

⑥ 6月12日(水)



大井 玄
東京大学名誉教授

『お迎え現象』と
つながりの心理

『お迎え現象』は、終末期にある人がすでに亡くなった親しい人と会う現象である。この現象は意識の存在から解釈することも、脳の認識機能から説明することも可能に見えるが、いずれにせよ、その中核には「つながりの心理」が働いているように見える。つながることにより私たちは安堵するのである。

⑦ 6月19日(水)



島蘭 進
東京大学教授

日本人の死生観と無常観

仏教は無常を知り仏道に心に向けることを教えてきた。それはまた実意識にも透達し、桜はいのちのはかなさを思わせるが故にこそ歌い続けられてきた。こうした日本人の死生観がどのように変化して現在に至っているのか、ともに考えていきたい。

⑧ 6月26日(水)



河邊 貴子
聖心女子大学教授

愛する命を送るとき
～「河辺家のホスピス絵日記」より～

末期がんの夫はホスピスで最期の時を迎えました。がんが発見された時の思い、再発したときの落ち込み、共に歩んだ家族として、そのときどきに何を感じ、どう支えたのか。また、私たちが受けたホスピスケアとはどんなものだったのか。体験を語りたいと思います。

⑨ 7月3日(水)

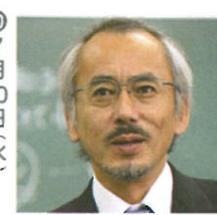


柏木 哲夫
金城学院学院長、
淀川キリスト教病院名誉ホスピス長

いのちに寄りそうケア

病氣や災害で困っている人を「支える」という。支えるは、下からである。支えなければその人は落ちるという気持ちがある。「寄りそう」は横からである。寄りそえば、その人は前に進むという信頼感がある。いのちに寄りそうことについて考えてみたい。

⑩ 7月10日(水)



水谷 修
花園大学客員教授、
関西大学客員教授

夜回り先生、いのちの授業

今、多くの人たち、子どもたちが、明日を夢みることができず、苦しんでいます。リストカットや鬱病、自死にいたる方々もたくさんいます。その背景と解決方法をお話しさせていただきます。

撮影：足田 千里

お申込み方法

ホームページから

お申込みはコチラ

JR西日本財団

検索

※ハガキでもお申込みいただけます。(「連続講座参加希望」と明記の上、参加される方の氏名(要フリガナ)、郵便番号、住所、電話番号、メールアドレスを記載し、下記の宛先へお送りください。)

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 JR西日本あんしん社会財団

- ※10回通しの講座のため、全回一括でのお申込みとなります。特定の日のみの参加またはお申込みはできません。
- ※ハガキでのお申込みの場合は、1枚につき1名様のお申込みとさせていただきます。
- ※申込締切：平成25年4月8日(月)(ハガキの場合は必着)
- ※お申込み多数の場合は抽選とし、当選者の発表は受領証の発送(4月下旬頃)をもって代えさせていただきます。
- ※お申込みが本会場の定員を超えた場合、モニターで視聴できる別室(モニター会場)をご案内させていただきます。
- ご希望の方は「モニター会場でも可」とご記入ください。なお、最初からモニター会場での視聴のお申込みはできません。
- ※お申込みで知り得た情報は、当該講座の運営及び財団からのお知らせ以外の目的には使用しません。



ご来場は、公共交通機関をご利用ください。